

自然環境講座「里山の湿地の魅力」

～人とのかかわりを考える～

日 時：平成29年2月26日（日）午前10時から12時まで
講 師：富田啓介氏（愛知学院大学教養部講師）
実施場所：ながくてエコハウス 多目的室
参加人数：58名
主 催：長久手湿地保全の会・長久手市



講師の富田啓介氏



講座概要

東海地方の湧水湿地の景観・草花・生き物から湿地の魅力を感じ取ってもらい、市内の湿地について紹介するとともに、保全・活用をどう進めていくかを考えていきました。

講座内容

まずは、湧水湿地の魅力を湿地の春夏秋冬の景観や草花、生き物を通してご紹介していただきました。四季それぞれ違った表情をみせる湿地には、かかんでよく見てみると、とても小さな植物が可憐な花を咲かせていたり、小さな珍しい昆虫がいたりします。



次に、日本の低地や丘陵地に多い湧水湿地と寒冷地、高地に多い泥炭湿地の違いから、東海地方に多い湧水湿地の特徴と成り立ちについてお話いただきました。長久手市東部には、東海地方の典型的な10数カ所の湧水湿地があり、希少種を含むため、保全上きわめて重要である一方、開発により失われた湧水湿地もあるとのことでした。



【モウセンゴケ】

富田先生が調査を進めてきた長久手市の湿地の地形・面積の測量や水質・地下水位の観測の結果について、現段階で分かったことをお話いただきました。地下水位は、正午前が最も高いこと、酸性・アルカリ性の程度を示すpH値と

貧栄養・富栄養を判断する電気伝導率 EC 値とともに、東海地方の特徴である酸性・貧栄養で安定しているとのことでした。

また、湧水湿地に公的な保全制度が届きにくい現状についても言及され、保全には、社会的合意に基づいた適切な保全計画が必要の旨、説明されました。



【6月の長久手市の湿地】

湿地保全活動の事例として武豊町の「壱町田湿地」が取り上げられ、行政、社会教育指導委員、ボランティアの壱町田湿地を守る会、小中学生のボランティア、近隣住民が連携した保全活動について紹介されました。



長久手湿地保全の会から来場者にフォトブックのプレゼントと、写真展示がありました。